

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

迎春、本年も宜しくお願い致します。

プロジェクト
メンバー

後列左より

平山 喜雄
鈴木 美伸
細田 泰博
矢野 智樹

前列左より

有田 五郎
藤村 博之
白井 章詞

プロジェクトメンバーから

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー 最終年度に向けて取り組むこと

この3Dプロジェクトも、あと1年少々で終わりを迎えることとなります。今年は集大成の年と位置づけて、さらに様々な試みをしていきたいと考えています。

一つの挑戦は、新しいインターンシップの開発です。多くの企業で行われているインターンシップは、長めの会社見学の域を出ていないと思います。インターンシップとは、社会の実情を知り、自らの能力不足を思い知らされて「もっと勉強しなければダメだ」と自らを鼓舞する機会であるべきだと考えます。インターンシップで得られた経験を大学での学びにどう結びつけるかが重要です。また、「インターンシップは手がかかるのでやりたくない」という企業側の思い込みをどう変えていくかも課題です。学生、企業の双方に有益なインターンシップを開発したいと思います。

もう一つの挑戦は、キャリア教育の再構築です。大半の日本企業が新卒採用において「メンバーシップ型の雇用」を前提としている以上、それに合わせた教育をしていくことがキャリア教育に求められていると思います。自分に何が向いているかは実際に仕事をしてみないとわからない、「しなければならないこと」に真摯に取り組むことによって「できること」を増やしていき「やりたいこと」を任されるようになる—こういった点をしっかり伝えていきたいと思います。

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう） 「実物」で感性を磨く！！

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。アベノミクスによる久しぶりの賃金上昇と一方では消費税率アップの影響懸念、期待と不安の入り混じる新年を迎えました。就職活動が本格化するこれからの時期に、そして結果として企業からの内定が特定の学生に集中する現実を見るにつけ、地道に「実物」と触れて感性を磨く訓練の必要性を痛感しています。ゲーム機などによるバーチャル世界では得られない対人感覚や緊張感に触れる中で、考え・行動する姿勢と決断の覚悟を身に付けて欲しいのです。大人と接する、スポーツに打ち込む、恋愛をして悩む…、こうした「生」の体験の積み上げが結局は就職活動の結果に直結していると感じています。

プロジェクトメンバーから

特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ） ビジネスコンテストの選考基準と教材化

昨年末に行ったビジネスコンテストでは、連携大学の志望者から成る「公募チーム」、キャリアデザイン演習の授業履修者から成る「授業チーム」、そして単位外講座の有志から成る「ゼミチーム」の17チームが提案をまとめ、審査員（経営者・経営コンサルタント・大学教授）へのプレゼンテーションと質疑応答を行いました。結果は、選考基準（実地見学・統計調査・質問調査・サンプル作成・試行等）通り、授業での学びを多く活かしたチームが入賞しました。学生には、単なる個人の「思いつき」と、仮説をたてて検証した「企画」との違いが体験学習できたと思います。

更に、プレゼンテーションはビデオ撮影し、報告会終了後に解説を行いました（一部のチームはこれから）。こうした試行錯誤の実績が、来年度の授業の糧となり、教材として大学に残ります。プロジェクトもいよいよ大詰め年度に入りますが、どれだけのものを形にして残し、未来に繋げていけるかを意識して精進していきたいと思えます。

特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ） テストからも学ぶことは多い！

「いい授業って、受講中にそう思うこともあれば、テストを見て、そう思うことだってありますよ」。これは、私が法政で授業をすることになった初年度の冬に、テストを終えた学生から言われた言葉です。その学生によれば、「テストには、先生がこの授業を通して学生に伝えたいこと、考えて欲しいことが詰まっている」という。そして、中身の無い授業は、テストもいまい加減だという。この学生の言葉は、今でも忘れることが出来ません。この言葉を意識することで、今ではテストを成績評価のためだけのものではなく、授業（教育）の一環として捉えるようになりました。今年も、これから採点です。これまでの授業の成果と問題点を考えながら、学生の答案を読み進めていきたいと思えます。

事務局スタッフ 平山 喜雄（ひらやま よしお） 就活「ウマ」くいく？！

今年も午年です。午年はその語感から『ものごとが“うま”くいく』転じて『幸福が駆け込んでくる』年だそうです。また、子馬が生後1時間ほどでしっかりと立ち上がり、すぐに駆けることができるようになることから、『立ち上がり早い』転じて『出世が早い』というイメージもあるようです。アベノミクスの効果もではじめ、「汗馬の労」もいとわず動き回っている学生にとっては、なかなかいい年になりそうな予感ですが、「一匹の馬が狂えば千匹の馬も狂う」のことわざ通り、群集はたやすく暗示にかかりやすく、一人が騒ぐとそれにつられて騒ぎ出すこともあります。また、「馬に乗るとも口車に乗るな」の例えにあるように、学生のみなさんは、氾濫する情報をうまく整理、活用し、自分自身をしっかり見つめながら就職活動に臨んでほしいと思えます。

なお、兜町には、干支にちなんだジンクスがあります。「辰巳（たつみ）天井、午（うま）尻下がり」午年は下げ相場になるという意味らしいです。相場の経験則にもとづいたジンクスで、89年末、日経平均が史上最高値をつけたのち、午年の90年を経て、91年、バブルは崩壊しました。就職市場も回復に向かっているようですが、学生のみなさんも気を抜かずがんばってくださいね。でも最後は「人間万事塞翁が馬」の心境が大事だったりしますが……

事務局スタッフ 細田 泰博（ほそだ やすひろ） 「学力重視」の時代が来た！…???

「ガクチカ」就活エントリーシートに書く「学生時代に力を入れたこと」をこう呼ぶんだそうです。採用基準は「コミュニケーション能力重視」と言われ、サークル・アルバイトなど課外活動のエピソードをかき集めていた学生に衝撃が走りました。三井物産や富士通など15社がエントリーシートと同時に成績表を求めている、つまり成績を基準にするスタンスを明らかにしたとのこと。これに対し当然不安を示す学生も居ますが、意外に「してやったり」と感じている学生がいます。自分より上位校（難関大学）に入っただけで勉強しない学生に勝てる！と思う学生が居るわけです。

「働く力は授業で身に付く」を標榜する私たちにとって（当然、授業が本体である大学にとっても）追い風ではありますが、大学生にとって「今はこっちが有利」「次はあっちが有利」といった流行りととられないかが心配です。

◆ 教材ビデオ新シリーズ

「働く場面を実感させるオリジナル教材ビデオ」シリーズVがまもなく完成します。今回は中小企業編で、志望ではない営業の仕事になじめず大手企業を退職した社会人2年目の主人公が、母校のキャリアセンターに相談し、念願の商品企画の仕事ができそうな中小企業に再就職。大企業とは勝手が違う状況の中、奮闘していく、というストーリーです。このビデオで主人公が訪れるキャリアセンターのシーンは、本学にて撮影が行われました。シリーズVIIは百貨店編で、現在制作中です。この他に、教材ビデオの授業での活用方法を提案するビデオの制作にも取りかかっています。

◆ シンポジウムのご案内

企業・大学関係者のみなさまへ向けて、3/22にシンポジウム『大学の学びで「働くチカラ」が伸びている』を開催いたします。従来の教員による学生の教育・指導に産業界の知見やニーズを反映した教育手法を組み合わせることによって、4年間の教育を「立体的に」展開する本学の取組みをご理解いただき、本学のノウハウを大学や企業の人材育成に有効活用していただきたいと考えております。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：2014年3月22日（土）13:00～16:30 会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 6F 薩埵ホール（申込制・参加費無料）

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト（事務局：学務部教育支援課）

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/